

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね		
所在地	栃木県下都賀郡岩舟町静1281-1 (電話) 0282-54-3133		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価確定日	平成22年1月15日

【情報提供票より】(平成21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 7 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算 人 常勤7人, 非常勤 人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の 経費 (月額)	・理美容代—2,000円 ・日用消耗品—150円/1日 ・光熱費—350円/1日 ・おむつ代—150円/1枚 ・教養娯楽費—100円/1日 ・電気代—50円/1日/1点
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(平成21年11月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名	
要介護1		5 名	要介護2		5 名	
要介護3		6 名	要介護4		1 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、入居者が住み慣れた地域の中で家庭的な落ち着いた穏やかな環境の下で、一人ひとりの人間性を重視した支援を行うことを目的とした5つの基本理念と3つの行動指針に基づいて運営されており、管理者及び職員はこれらの理念や指針を共有し、日々の入居者の支援に取り組んでいる。近隣には同法人の3ヶ所のグループホームもあり、職員間の勉強会や入居者も含めた行事等での交流を行い、相互に質の向上に取り組んでいる。また、ホームでは多くの行事等の開催を心がけており、入居者の誕生会や法人と合同での納涼祭の実施や著名人を呼んでのお楽しみ会等を開催している。法人及びホームでは職員の育成にも力を入れており、法人内部研修の実施など、職員の士気高揚に努めている。記録様式の種類は多く、センター方式を用いたり、家族との面談記録を作成する等の工夫を加えている。ホームの共有空間はゆったりとしており、U字型のテーブルでは入居者の笑顔が一目で見渡せるレイアウトになっている等、A館・B館とユニット毎に特徴があるホームである。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価で見出された課題等については、定例会等にて職員間で意見を出し合い、質の確保及び向上に向けた取り組みに活かしている。</p>
①	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、評価の意義や狙いについて管理者と職員間で話し合いを行い、全職員が個別に自己評価を記入し、その結果を管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、町担当職員等に参加してもらっている。会議では事業所からの運営状況等の報告とともに参加メンバーから意見や助言を受けるなど、双方向的な会議となっている。また、会議の結果については全職員に周知を行い、ホームの定例会等の議題としても話し合いを行い、サービスの向上に繋げている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付担当者及び運営適正化委員会の連絡先を玄関に掲示している他、意見箱も設置している。リビングやダイニング等にも苦情受付についての掲示を行っている。家族へも定期的なアンケート実施や面会時、運営推進会議等において意見や要望を伝えやすい環境づくりに努めており、出された意見や要望等を運営に反映させている。家族への入居者の生活状況や健康状態等の報告は、毎月、手紙と写真を送付している他、2ヶ月に1回は施設の広報誌も送付している。預かり金は個別の帳簿で管理しており、利用料支払時等で家族が訪れた際に報告をしている。入居者の急変時等に臨機応変に対応出来るよう、緊急連絡表を作成する等、家族への報告を密にしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、地域の運動会やお祭りに参加している他、ホームで開催している月毎の行事や納涼祭には地域の方々にも参加してもらっている。また、近隣住民がホームに花を持って来てくれたり、散歩や日光浴をしていると気軽に声を掛けて来てくれる等、地域の一員として関係づくりに取り組んでいる。ホームは子供110番の指定場所にもなっており、小学生達が学校帰りに立ち寄りもしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた地域の中で家庭的な落ち着いた穏やかな環境の下で、一人ひとりの人間性を重視した支援を行うことを目的とした5つの理念をつくりあげている。また、3つの行動指針「ゆったり・たのしく・いっしょに」も掲げ、日々の支援に努めている他、各ユニット毎にも年度目標をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念や行動指針を掲示しており、朝夕の申し送り時やスタッフミーティング時に唱和をしている。また、入居者の支援方法等においても理念に基づき全職員で話し合いを行い、具体的な実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の運動会やお祭りに参加している他、ホームで開催している月毎の行事や納涼祭には地域の方々にも参加をしてもらっている。また、近隣住民がホームに花を持って来てくれたり、散歩や日光浴をしていると気軽に声を掛けて来てくれる等、地域の一員として関係づくりに取り組んでいる。ホームは子供110番の指定場所にもなっており、小学生達が学校帰りに立ち寄ったりもしている。	○	現時点においても地域住民との交流は積極的に行われているが、さらにホームと地域住民の接点を増やしていくためにも自治会等への加入も検討し、地域活動の情報収集に努める等、更に相互交流の関係づくりに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、評価の意義や狙いについて管理者と職員間で話し合いを行い、全職員が個別に自己評価を記入し、その結果を管理者がまとめた。自己評価や外部評価で見出された課題等については定例会等にて職員間で意見を出し合い、質の確保及び向上に向けた取り組みに活かしている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、町担当職員等に参加してもらっている。会議では事業所からの運営状況等の報告とともに参加メンバーから意見や助言を受けるなど、双方向的な会議となっている。また、会議の結果については全職員に周知を行い、ホームの定例会等の議題としても話し合いを行い、サービスの向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者と町担当職員とは密に連絡を取っている。町の主管部署が開催する成年後見制度に関する勉強会や高齢者虐待防止法に関する勉強会に参加するなど、理解を深めながら質の向上に取り組んでいる。	○	ホームの課題や実態を共有し、サービスの質の向上に取り組んでいく上で、町担当職員との関係づくりを積極的に行い、協働関係のさらなる構築に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の生活状況や健康状態等の報告は、毎月、手紙と写真を送付している他、2ヶ月に1度は施設の広報誌も送付している。預かり金は個別の帳簿で管理しており、利用料支払時等で家族が訪れた際に報告をしている。また、入居者の急変時等に臨機応変に対応出来るよう、緊急連絡表を作成する等、家族への報告を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者及び運営適正化委員会の連絡先を玄関に掲示している他、意見箱も設置している。リビングやダイニング等にも苦情受付についての掲示を行っている。また、家族への定期的なアンケート実施、面会時、運営推進会議等において意見や要望を伝えやすい環境づくりに努めており、出された意見や要望等を運営に反映させている。	○	地域密着型サービスは、家族と職員が顔の見える関係をつくりやすい。反面、素直な意見等を表しにくい状況も生まれることから、さらに家族が安心して意見や苦情等を職員や外部の苦情受付機関に表せる機会づくりに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の内部異動は定期的に行われているが、職員が替わる場合には引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるようにすると共に入居者にダメージが出ないように馴染みの関係を築きながらの支援に努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修には積極的に参加するようにしており、同法人の他のホーム職員との職員定例会では話し合い等を通して発表の機会も設けている。また、各種研修の案内等も周知しており、自己啓発しやすい環境づくりや各職員のレベルに応じた業務を与える等、働きながらトレーニングをしていける環境をつくり、職員の士気高揚に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、同法人の他ホームとの勉強会や行事等での連携も行っている。他の事業所からも研修生の受け入れや、他の事業所への見学等も行い情報交換等を行っている。	○	他事業所との情報交換等により、ホームでも他事業所で実施されている事例等を検討し、実施に向けた取り組みをしていることから、今後同業者間で協働しながら質の向上に取り組んで行くことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があった時には職員が本人及び家族宅への訪問を行い、馴染みの関係を築いたうえで、ホームに本人や家族に来所してもらい施設の見学や他の入居者及び職員の様子等を確認してもらっている。希望によっては、食事等も一緒に取ってもらうなど、安心して納得しながらサービスの利用ができるよう段階的な支援の配慮を家族の協力の下で行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に暮らす同士として、喜び、哀しみ、楽しみ、不安、こだわり等の本人の思いを共感し理解することに努めている。また、多くの入居者が得意分野で力を発揮することができるよう支援しており、生活の技や生活文化の大切さを職員は入居者から教えてもらう等、共に支えあう関係を築いている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント様式を利用して入居者一人ひとりの本人の状態を把握するよう努めている。日々の生活も介護記録に正確に記載されており、入居者の日々の行動や表情から、思いや意向の把握に努める等、本人本位の検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当職員が中心となり、家族の面会時等に入居者及び家族とのヒヤリングや必要に応じて医師の指示や法人の栄養士のアドバイス等を踏まえて介護計画を作成している。また、定例のスタッフミーティング等を通して個別の情報も共有したり、状況を把握することにより、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度ケアカンファレンスを定期的に行いケアプランを作成して見直しをしている。また、入居者の状態に変化等があった時は随時見直しをしている。日常の中で各種記録表の整備や入居者との会話の内容や表情等も記録し、職員が何時でも目を通せる場所に保管し情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算及び短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定を受けている。法人内の事業所の行事に参加したり、近隣で開催されるイベントに参加したりしている。要望に応じて必要な時に必要なサービスを臨機応変に馴染みの職員が柔軟な支援をしている。		

グループホーム八州苑いわふね


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医院が協力医療機関になっており、定期受診が行われている。受診時には家族に的確に情報を伝達出来るよう各種記録をしている。また、他の病院等での受診の際には、家族が付き添っているが、受診結果を聞いたり、薬剤情報提供書をもらう等、情報の共有化に努め、スムーズな診察が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成しており、職員間でも話し合いを持ち重度化や終末期に備えた準備をしている。本人や家族の意向の把握に努め、本人にとってどうあったら良いのか、ホームが対応しうる最大の支援方法を踏まえ家族や主治医と相談する機会を持ち、こまめに状態の報告を行い、また、他の介護サービスの連携も含め本人や家族の意向を尊重し、方針に沿った対応を職員全員で共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止に努めており、徹底が図られている。職員はミーティングや毎日の支援を通じて入居者の気持ちや体調を把握しており、常に入居者への確認を行う支援に努めている。また、入居者の個人情報等の記録類は事務室内にて保管をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れや月ごとの行事や計画はあるが、入居者が主人公となってその人らしい生活が出来るよう支援している。一人ひとりにその日にしたいことを確認しており、本人のペースに沿って見守りながら支援に努める等、個性のある支援をしている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに応じて管理栄養士と相談のうえで毎日の献立を作成している。食材は地域の商店から宅配してもらい、調味料等は入居者と一緒に買出しに出かけている。入居者の出来ることに配慮しつつ、下ごしらえや味付け、おやつ作り、洗いや食器拭き等を職員と一緒にしている。また、本人から希望があれば時折お酒を楽しむことも出来る。職員1名が入居者と同じ物を食し、他は見守りながら自前のお弁当を食していた。	○	入居者と職員と一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるような支援は必要であり、ホームの理念の位置づけでもある「家庭的」という観点からも職員全員が入居者と一緒に同じ物を食べられる様な取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望の確認を毎日行っており、入浴時間帯や入浴の長さや温度調整を出来る限り希望に応じて支援をしている。入浴時間は午後2時～5時頃の時間帯を目安としている。なお、身体的な入浴介助を行う場合、同性介助を希望する入居者に対しては配慮をしながら支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、潜在している記憶や力を最大限活かして自分らしく暮らせるよう一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援に努めている。調理、食事のセッティング、食後の後片付け、掃除等を職員の見守りのなかで行っている。また、入居者の馴染みの深い畑仕事等では職員が教えてもらいながら一緒に作業をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の入居者の状態や気候に応じて一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している。買い物、ドライブ、散歩、外食、行事への参加や希望によってはお墓参り等に出掛けるなど、家族の協力も得ながらできるかぎりの支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が車道であり、車の往来が激しいとの立地条件の問題や不審者の侵入防止のために家族の了解を得て玄関には施錠をしている。職員は入居者一人ひとりの外出傾向等の把握に努めており、外出しそうな様子を察知した場合には、さりげなく声をかけ一緒に行動をする等の支援に取り組んでいる。	○	入居者の安全面や不審者の侵入等にも配慮した結果、玄関が施錠されているが、入居者の心理的な不安、閉塞感等のデメリットも認識する事が重要である。近隣の住民にも理解を求め、見守りや声かけ等の連絡をしてもらえる関係を築く等、施錠しないケアの実践に向けた今後の検討に期待したい。

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練等を消防署との連携の下で行っている。備蓄等は法人で確保している。	○	災害はいつ、どの時間帯に起きるかわからないことから、昼夜を通じての発生時間を想定し、具体的な役割や避難誘導策を決めておく必要がある。また、いざという時のために地域住民の協力体制を構築するなど、地域住民の参加・協力の下での訓練の開催にも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう職員全員が知識や意識を持ち食事や水分の摂取量をチェック表に記入して摂取状況の把握に努めている。入居者一人ひとりの嗜好を把握してうえで、カロリーや栄養バランスを管理栄養士の指導の下で支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長として、自分の力でその人らしく過ごせる場としての配慮をしている。テレビの音や照明、日差しの調整等は入居者の確認をとりながら行っている。リビング等の装飾等は季節毎に変えたり、入居者が作成した作品を飾り、居心地良い共有空間がつくられており、昼食後にはソファに腰を掛けテレビをみている入居者もいた。また、共用空間には不快な臭いや空気の淀みもなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には各々がベット、机、椅子、テレビ、タンス等の家具類や使い慣れた馴染みの物を持ち込まれており、個性ある居室づくりがなされている。家族とも相談しながら居心地良く過ごせるよう支援に努めている。また、各居室の入口には職員の支援の下で入居者の写真等が飾りつけられていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。